

演劇計画 2004

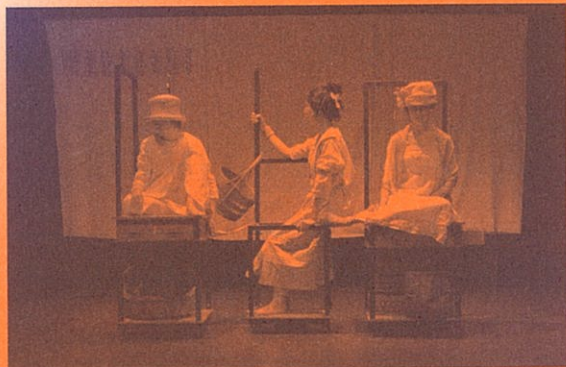
幕は上がる。

「演劇計画2004」は、京都芸術センターで舞台芸術作品を生み出す長期的視野に立ったプロジェクトです。従来の劇団・カンパニーといった集団の枠を超えて集う個々の才能を、上演の担い手として育成することで、舞台芸術に新たな未来を提示します。このプロジェクトでは、特に「演出家」を発掘・育成することに焦点を当てています。時代の感覚を受け止め、上演を魅力的なものにする力を持つ「演出家」の存在が起点となって、様々な才能がここ京都に集い、同時代の感覚に満ちた作品を生み出します。

計画I 才能の育成

このプロジェクトでは、関西を中心に活動し、今最も注目すべき二人の若手演出家に創作の機会を提供します。独自の演出理論を確立しようと実験を続ける三浦基は、従来のテキストからではなく新しい「言葉」を手がかりに作品を創り出します。数々の俳

三浦基 / じゃぐちをひねればみずはでる



青年団リンク・地点「三人姉妹」(2003年9月・ソウルフリンジフェスティバル・韓国・ソウル)
撮影: Won-Bae PARK

飯田戯曲「1+1 one plus one」をベースとして、三浦が飯田の小説・詩から章句を引用し再構成したテキストによる新作。

「じゃぐちをひねればみずはでる」

演出・構成: 三浦基

原作・テキスト: 飯田茂実

出演: 安部聡子 飯田茂実 内田淳子

会場: 京都芸術センター フリースペース

私の机には、飯田氏のテキストが大量に積まれています。いつのまに私を占領していたのか。朝刊を運ぶバイク音に慌ててテキストを閉じて就寝する日々。夜明けの辺りで不安に駆られている言葉たちを、とにかく白昼堂々と引きずり出してみたくなりました。
三浦基

三浦基 (MIURA Motoi)……1973年生まれ。青年団演出部所属。青年団リンク・地点主宰。1999年より文化庁派遣芸術家在外研修員として2年間パリに滞在する。テキストの綿密な解釈に基づく独特の作劇を展開。「海と日傘」「Jericho2」(いずれも作:松田正隆)など、京都芸術センターでの上演作品も高く評価されている。青年団リンク・地点第5回公演「三人姉妹」(作:アントン・チェホフ)はソウルフリンジフェスティバル正式招待作品として韓国公演を果たした。2004年3月には「家」(作:ニコラ・マッカートニー)のリーディング上演を世田谷パブリックシアターで行い、好評を得た。

チケット発売開始: 2004年5月1日(土)

公演日程: 7月5日(月) 19:30
6日(火) 19:30*
7日(水) 19:30
8日(木) 19:30
9日(金) 19:30
10日(土) 19:00
11日(日) 14:00

開場は開演の20分前。
開演の1時間前より当日券販売開始
*6日終演後、アフタートークを実施します。
(ゲスト:山田せつ子【舞踊家】)

料金(全席指定) 一般: 2,500円
学生: 2,000円
要学生証提示・京都芸術センターのみで取り扱い

チケット取り扱い
電子チケットびあ: 0570-02-9999 (オペレーター対応)
0570-02-9966 (Pコード:353-833)
コンビニエンスストアに備え付けの「チケットびあ」
専用端末からもご購入いただけます。
ファミリーマート/セブンイレブン/サンクス各店にて

京都芸術センター: チケット窓口 10:00~20:00 7月14日~16日を除き無休
電話 075-213-1000
WEB <http://www.kac.or.jp/>

水沼健 / アルマ即興



羊園「石なんか投げないで」(2004年3月・メイシアター)
撮影: Shimizu Toshihiro

水沼健と現代演劇の俳優達が更新する、イヨネスコ不条理劇の現在。

「アルマ即興」

サッカーのように自由なものをつくりたいなあと思います。この戯曲ならそんなものができるなあと思いました。これはどうだろうというぐらい遠くに蹴ってみたいものです。オウンゴールは避けたいです。まあ、ゴールがあればの話だが。
水沼健

水沼健 (MIZUNUMA Takeshi)……1967年生まれ。MONO所属。1989年、立命館大学在学中にMONO結成に参加して以来、ほぼ全作品に出演。外部への出演も多数行っている。京都芸術センター主催の「現代演劇俳優セミナー2000」に参加したほか、「海と日傘」日韓プロジェクトの日本語版にも出演。内田淳子・金替康博とのユニット「羊園」では演出を担当。過去、松田正隆の作品「Jericho」「水いらずの星」「石なんか投げないで」、自身の創作「むずかしい門」(第10回OMS戯曲賞最終候補作、第4回AAF戯曲賞佳作)を演出している。2004年5月に、「アトリエ創研演劇祭」に「壘ノ花園」を結成し参加。

チケット発売開始: 2004年7月24日(土)

公演日程: 9月28日(火) 19:30*
29日(水) 19:30
30日(木) 19:30
10月1日(金) 19:30
2日(土) 15:00/19:00
3日(日) 15:00

料金(全席指定) 一般: 2,500円
学生: 2,000円
要学生証提示・京都芸術センターのみで取り扱い

チケット取り扱い
電子チケットびあ: 0570-02-9999 (オペレーター対応)
0570-02-9966 (Pコード:354-211)
コンビニエンスストアに備え付けの「チケットびあ」

関連イベント

「演劇計画2004」では、特に「演出」に着目してプログラムを立案しています。「演出」について考える場を持ち、様々な意見を交換することはこのプロジェクトを検証する上で非常に重要なことだと考えます。参加した人々が作品について更に深く出会えるような機会を提供し、そのことによって、作品が観客も含めた周囲の環境と共に育まれていくことを目指しています。今回は、三浦演出作品・水沼演出作品を切り口としながら、「演出」について考えるシンポジウムをそれぞれの公演期間中に開催します。

シンポジウム「境界線上の表現」 2004年7月11日(日) 16:00～ 京都芸術センター 講堂にて 入場無料
詩・小説・戯曲・散文などあらゆるテキストと、ダンス・音楽・美術など、多ジャンルのアート作品からインスパイアされ、それらをコラージュする演出家・三浦基。彼の表現は、演劇を足場としながらも、既存のものから遠く離れていこうとする、ジャンルの境界線上にある表現といえるのではないか。そのような三浦の作品を切り口に、多方面からのパネリストを招き、現代に通じる普遍的な「表現」とは何かを考える。

パネリスト： 三浦基(演出家/青年団リンク・地点)
飯田茂実(俳優・ダンサー・音楽家・文学者)
砂連尾理(振付家・ダンサー/砂連尾理+寺田みさこ)
高嶺格(美術作家)
司会進行： 八角聡仁(批評家/京都造形芸術大学助教授)

シンポジウム「冒険する劇言語」 2004年10月3日(日) 17:00～ 京都芸術センター 講堂にて 入場無料
台詞として存在する特殊なテキストである「劇言語」と、それを使用する身体の関係性。これらを課題として未消化なまま、現代演劇は只中にあるのではないだろうか。アンチ・テアトルと呼ばれたE・イヨネスコの作品を上演する水沼健演出作品を手がかりに、現代演劇における「劇言語」はどこへ行くのか、どのような可能性があるのかを再考する。

パネリスト： 水沼健(演出家/MONO)
森本研典(俳優/劇団☆太閤族)
西成彦(立命館大学大学院先端総合学術研究科教授)
宮沢章夫(劇作家・演出家)
司会進行： 八角聡仁(批評家/京都造形芸術大学助教授)

申込方法： お電話にて、京都芸術センター(075-213-1000)までご予約下さい。定員がございますので、ご予約の方に優先してご入場いただけます。お席に余裕がある場合、当日のご入場も可能となります。

スタッフ(2公演共通)

舞台監督： 石田昌也
照明： 吉本有輝子
音響： 堂岡俊弘
舞台美術： 西田聖(GEKKEN staff room)
宣伝美術： 木村三晴
ウェブデザイン： 清水俊洋
制作： 垣脇純子 筒井加寿子
企画： 橋本裕介 丸井重樹

協力： 京都造形芸術大学・NPO法人劇研・アートコンプレックス1928・
青年団・MONO・劇団☆太閤族・スクエア・劇団飛び道具・
クリオネ・radio mono・真昼
助成： 財団法人地域創造
主催： 京都芸術センター



関西から



宝くじは
豊かさ築く

計画Ⅱ——才能の発掘

京都芸術センター舞台芸術賞

今回のプロジェクトの一環として、二人の演出家(三浦・水沼)に続く次代の舞台表現の担い手を発掘、「京都」にて育成することを目的に「京都芸術センター舞台芸術賞(Kyoto Art Center Theatre Award)」を設立しました。優秀な作品を表彰し、10万円の賞金を贈呈するとともに、その作品を上演した演出家が本賞を経て、より優れた作品を制作していけるよう、2005年度の「京都芸術センターセレクション」での上演の機会を提供します。

「京都芸術センター舞台芸術賞」の概要と選考方法

京都市内で上演される舞台芸術作品のうち、選考委員の選出による推薦枠と一般公募枠のノミネート作品を対象とし、審査員の観劇による審査を経て「京都芸術センター舞台芸術賞」受賞作品を1作品決定します。

1. 推薦枠(5作品)……………2004年6月1日(火)～10月2日(土)の間に京都市内で自主公演として行われる舞台芸術作品のうち、演出上、今後特に注目される作品を、受賞候補作品としてノミネートします。
2. 一般公募枠(3作品)……………2004年3月に一般公募した応募者の中から選出される舞台芸術作品を推薦枠の作品と同様に受賞候補作品とします。

京都芸術センター舞台芸術賞 作品選考委員
ノミネート作品の選出にあたります。

酒井徹 [京都造形芸術大学舞台芸術研究センター]

松田正隆 [劇作家]

森山直人 [京都造形芸術大学舞台芸術研究センター]

吉田和陸 [(株)プラネットワーク/元蘭町ミュージアムスクエア・フォーラム担当]

副賞: 10万円

2005年度「京都芸術センターセレクション」における作品発表機会の提供(舞台芸術賞作品演出家に対して)

2005年度「京都芸術センター主催舞台公演事業」観劇フリーパス(舞台芸術賞作品演出家に対して)

公開選評会および受賞者発表:

2004年10月3日(日)18:00～ 京都芸術センター 講堂にて

京都芸術センター舞台芸術賞 審査員
受賞作品の選出にあたります。

上田假奈代 [闘う詩人・詩人]

太田耕人 [演劇批評家/京都芸術センター運営委員]

ノミネート作品紹介(推薦枠 計5作品)

演出	演目	公演日程	選考委員コメント
杉原邦生 (KUNIO 01 / 京都)	ベリカン家の人々 (作/レイモン・ラディゲ)	6月5日(土)・6日(日) アトリエ劇研	京都造形芸術大学・舞台芸術コースの現役学生である杉原邦生の演出家としての持ち味は、人を唖たような生気感とバランス感覚を兼ねそなえている点にある。彼の手にかかるとカントルの「死の教室」までもが換骨奪胎され、もとの作品とは違った反スペクタクルが立ち上げられる。キャリア的には未知数だが、たんなる名作戯曲ではなく、ラディゲの「若書き」の劇言語をあえて選んだ挑発性を買う。 森山直人
たみお (ユリイカ百貨店 / 京都)	ナイトライダー (作/たみお)	6月11日(金) - 16日(水) ART COMPLEX 1928	ノスタルジーは作品を停滞させる。だが、ほとんどの舞台は中途半端にノスタルジックであることによって、その停滞を致命的なものにしてしまう。女性演出家たみおが作り上げるノスタルジックな世界の場合、言葉と空間と光と音楽を素材とするひとつの構造化されたスペクタクルは、あくまでも自覚的に演じられる。その舞台は、郷愁から距離を取るための方法を、「接近戦」を通じて探っているようにも見える。 森山直人
ユリイカ百貨店web http://yuri.hyakka.at.infoseek.co.jp			
竹内佑 (デス電所 / 大阪)	ちよっちゃん (作/竹内佑)	7月15日(木) - 18日(日) ART COMPLEX 1928	アングラなようにいてポップで、新しいようにいて懐かしく、毒を撒きちらしているようにいてヒューマンで、喜劇のようにいて悲劇で、プサイクのようにいてたまらんカワイくて。デス電所の魅力は、そんな行ったり来たりの臨界点を走り抜けることに彼らがすべてを賭けているところのように思う。ノミネート団体では、数少ない大阪からのエントリー。きっと今回は、「京都のようにいて大阪で…」(ウマイッ! うまいか? 自嘲気味に) 彼らのギリギリの挑戦が、「演劇計画2004」を大いに盛り上げてくれるに違いない。 吉田和隆
デス電所web http://deathitic.727.net/			
前田司郎 (五反田 / 東京)	家が遠い (作/前田司郎)	7月14日(水) - 19日(月・祝) アトリエ劇研	姉の幽霊との美しきランデブー。扇風機の風で飛ぶ妹。くだらない演技。だからやらせる俳優たち。進展しない会話。しかし、それは日常を再現し、つかの間小さな仕合わせで人の孤独を描いてくれるような賞りアリズム演劇ではない。現在の唯一の願望(死んだ姉に会いたい)を叶えるためには、抱き合わせのようにつきまとう無駄な欲望やどうでもいいような思い出、関係を拒絶したい他者をも受け止めなければならない。そんな受難をとまなごてこそ本当のリアルが得られる。増殖するベットのボルト。どこまでも遠いかけてる男たちの宴な歌。嗚呼、夢よりこわい! —前田司郎演出「逃げろおんなの人」(五反田第17回公演)について 松田正隆
五反田web http://www.uranus.dti.ne.jp/gotannya/			
山口茜 (トリコ・A / 京都)	肉付きの面現代版—絵— (作/山口茜)	8月4日(水) - 8日(日) ART COMPLEX 1928	OMS戯曲賞の事務局をつとめて丸5年。数々の選考経過を目撃してきたが、第10回OMS戯曲賞を受賞した山口さんの戯曲は、第一次選考から最終選考に至るまで「よくわからない。だが、強烈なインパクトのある作品」という評価が一貫していた稀有な作品だった。僕自身も「よくわからない」戯曲から立ち上がる舞台を観てもよくわからない。でも、その「よくわからない」感じが全然イヤじゃない。むしろスズブとその「よくわからない」世界に引きずりこんで欲しい衝動に駆られるのだ。今回は、果たして辿り着けるのか辿り着けないのか。ただただそれが楽しみで仕方がない! 吉田和隆
トリコ・A web http://toriko.chlips.jp			

(一般公募枠 計3作品)

演出	演目	公演日程	選考委員コメント
山下残 (京都)	せきをしでもひとり (尾崎放哉)	8月21日(土)・22日(日) 京都芸術劇場 studio21 (京都造形芸術大学内)	そもそも「演劇」と「ダンス」の違いはそれほど明確なものなのか? 山下残の世界は、狭い意味での「ダンスの振付家」の枠を大きく踏みこえている。一応「ダンス」という概念を手がかりにしつつも、その作品には「演劇」では滅多に見られない独特の言葉の運動があり、跳躍がある。彼のある種の錬金術的精神が、「演劇」や「演出」という固定概念に深刻な「ダメージ」をもたらすことを期待している。 森山直人
田中遊 (正直者の会 / 京都)	残り火 (サミュエル・ベケット)	8月26日(木)・27日(金) 京都芸術センター フリースペース	記憶の中の光景と音は、可視的なか不可視的なか、むこうから唐突に訪れる記憶とそれに連なる思い出への語りかけのなかで、舞台上に音が現れ、光景が聞こえてくるような作品だった。整然と並べられたいくつものCDプレーヤーとヘンリーとの位置のあり様は、音と音との関係を可視的なものとする。CDが記憶する波音や物音、人々の声。そして熱心に聴くヘンリーの記憶。いかに熱心だろうと彼の記憶も音であり物なのだ。とても哀しい舞台だった。 —田中遊演出によるベケット作の「残り火」(2004年2月New Produce Project-3にて初演)について 松田正隆
正直者の会web http://www.geocities.jp/shoujikkimononakai/			
筒井潤 (dracom / 大阪)	ハムレットマシーン (ハイナー・ミュラー) おふえりや遺文 (小林秀雄)	8月27日(金)・28日(土) 京都芸術劇場 studio21 (京都造形芸術大学内)	筒井さんの演出は、舞台芸術を俳優、テキスト・美術・光・音によって織りなされたものとみなし、トータルライブ・アートとしてその可能性を探求するものである。R.ウィルソンやJ.ケージの影響を受けて作られた20時間にもおよぶ長編作品やサイコロを振って俳優に台詞を割り当てる作品など、その作風は「実験的」と評されることが多い。しかしここではあえてそれを「冒険的」とよびたい。筒井さんは現代演劇が失いつつある冒険する精神をもっている。今回は「ハムレット」をネット検索にかけ、それをもとにテキストを作成し、いかにしてハムレット・イメージが形づくられているのかを探るといふ。ハムレットをめぐる筒井潤の冒険に注目である。 酒井徹
dracom web http://www.dracom-f.com			



ART COMPLEX 1928

tel : 075-254-6520
e-mail : artcomplex@pan-kyoto.com



アトリエ劇研

tel : 075-791-1966
e-mail : info@gekken.net



京都芸術劇場 studio21

京都造形芸術大学内
tel : 075-791-9437

京都芸術センター舞台芸術賞 オーディエンス賞

「演劇計画2004」では、会場に足を運ぶ観客の皆さんにもこのプロジェクトに参加していただきたく、「オーディエンス賞」を設けました。「京都芸術センター舞台芸術賞」ノミネート作品の中で、ご覧頂いた作品中、最も評価する作品を選んでいただき、その結果を発表します。京都芸術センターでより魅力的なプログラムを作るため、皆さんのご意見や思いを受け止めていきたいと思っております。

投票資格： 「京都芸術センター舞台芸術賞」ノミネート作品の観劇者（最低1公演）を対象とします。

- 投票方法：**
- 1) 対象となる公演は、「京都芸術センター舞台芸術賞」ノミネート作品、計8作品です。
 - 2) 各公演会場の受付および京都芸術センターの情報コーナーに設置される投票用紙を手に入れて下さい。
(用紙には参加作品数分の空欄があり、そこに来場スタンプを押すことができます。また、作品名を記載できる空欄があります。)
 - 3) 観劇した公演会場の受付で、スタッフに来場スタンプを捺印してもらいます。
 - 4) "観劇した公演数"が投票者の持ち点となります。
 - 5) 観劇したノミネート作品の中で最も評価する作品の名称を空欄に記載して下さい。
 - 6) 投票用紙は、各公演会場終了後受付、もしくは京都芸術センター事務室の投票箱で回収します。
 - 7) 投票期間は、8月31日(火)午後8時までとなります。(公演期間中以外は、京都芸術センターのみで投票となります。)

投票締切： 8月31日(火)午後8時まで(締切当日の投票は京都芸術センターとなります。)

※なお、ウェブサイト、電話での投票はできません。

副賞： 2005年度「京都芸術センター主催舞台公演事業」観劇フリーパス(オーディエンス賞作品演出家に対して)

受賞者発表： 2004年10月3日(日) 18:00～ 京都芸術センター 講堂にて

京都芸術センター舞台芸術賞 審査員プロフィール

上田真奈代 [闘う詩人・詩人]

3歳より詩作、17歳から朗読をはじめ、1988年より各種イベントやワークショップを手がけ、「トイレ運込み朗読プロジェクト」「寝ころごし朗読」などの活動を行う。2002年から京都芸術センター「詩の放課後」の講師をつとめる。2003年から大阪フェスティバルゲートでカフェとフリースペース「cocoroom」を運営。ホームページ <http://www.kanayo-net.com>

太田耕人 [演劇批評家 / 京都芸術センター運営委員]

京都教育大学英文学教授(英国ルネサンス演劇)・演劇批評家、1956年生まれ。主な共著に「シェイクスピアを学ぶ人のために」(現代思想社)、共訳書にフレドリック・ジェイムソン「政治的無意識」(平凡社)、オリヴァー・タプリン「ギリシア悲劇を上演する」(リブポート)など。シェイクスピア研究と平行して、現代日本演劇の評論を「テアトロ」「京都新聞」「劇の宇宙」に連載し、「朝日新聞」「シアターアーツ」などに寄稿。朝日舞台芸術賞選考委員。シアターアーツ賞選考委員。

太田省吾 [演出家 / 京都造形芸術大学舞台芸術研究センター所長代行]

1970年より転形劇場主宰。「小町風伝」(第22回岸田國士戯曲賞受賞)、「水の駅」「地の駅」「↑(やじるし)」などの作品を発表。国内のみならずヨーロッパ、アメリカ、アジアの各国で広く活動を展開。1984年紀伊國屋演劇賞団体賞受賞。1988年解散後は藤沢市湘南台文化センター市民シアター芸術監督、近畿大学教授を歴任、その間にも「風の駅」「更地」「砂の駅」などを国内外にて上演、1993年タシュケント国際演劇祭グランプリ受賞。最新作は「ノヤヅルシー誘われて」(2002年、新国立劇場)。現在は京都造形芸術大学教授。著作に、戯曲「小町風伝」「裸足のフーガ」「夏/光/家」、演劇論集「舞台の水」「劇の希望」「動詞の陰影」など多数。

小堀純 [編集者 / 季刊「劇の宇宙」編集長]

「名古屋ブレイクガイドジャーナル」、大阪の「ブレイクガイドジャーナル」(ぶがじゃ)編集長を経て、1988年よりフリーの編集者、ライター。関西を拠点に、全国的視野で演劇(小劇場演劇)を中心に紹介・評論・企画活動を展開。1988年西武美術館「現代演劇のネットワーク60's～80's」展企画。1998年秋より2001年春まで、季刊「劇の宇宙」編集長。「劇の宇宙」は2003年春復刊。再度、編集長を務める。OMS戯曲賞の企画推進役も務める。著書に中島らもとの共著「せんべろ探偵が行く」(文藝春秋、2003)がある。